

# 令和5年度第1回川崎市多摩川プラン推進会議 議事録

1 開催日時 令和5年8月29日(火) 午前10時30分～午前11時59分

2 開催場所 川崎市役所第3庁舎12階会議室

## 3 出席者(敬称略)

|      |        |                      |
|------|--------|----------------------|
| 委員長  | 吉富 友恭  | 東京学芸大学教授             |
| 副委員長 | 水庭 千鶴子 | 東京農業大学教授             |
| 委員   | 五十嵐 豊  | NPO法人多摩川エコミュージアム代表理事 |
| 委員   | 寺尾 祐一  | NPO法人多摩川干潟ネットワーク理事   |
| 委員   | 目黒 孝哉  | 味の素株式会社              |
| 委員   | 小野 貴之  | 富士通株式会社              |
| 委員   | 堀 良通   | 市民公募                 |
| 委員   | 江原 和人  | 市民公募                 |

## 4 議事

- (1) 令和4年度新多摩川プラン【多摩川は今】の報告
- (2) 多摩川河川敷施設の整備について
- (3) 多摩川河川敷の利活用について
- (4) 次回の多摩川プランの改定に向けた考え方の検討について
- (5) その他

## 5 配布資料

次第

令和5年度川崎市多摩川プラン推進会議委員名簿

別冊 多摩川は今 令和4年度川崎市新多摩川プラン実施事業報告書

資料1 多摩川における整備工事について(令和4年度実績報告と令和5年度施工計画)

資料2 多摩川における多様な主体との協働による取組について

資料3 報道発表資料: ゴールデンウィークから多摩川河川敷でバーベキューやイベントがはじまります!

資料4 多摩川プランの今後のあり方に関する検討資料

6 公開又は非公開の別 公開

7 傍聴人の数 なし

8 発言の内容 次のとおり(要約方式)

—開会—

【事務局】（事務連絡・会議の成立に関する説明）

【緑政部長】（挨拶）

【吉富委員長】（傍聴人確認）

**<議事(1) 令和4年度新多摩川プラン【多摩川は今】の報告、議事(2) 多摩川河川敷施設の整備について、議事(3) 多摩川河川敷の利活用について>**

【事務局】（資料に基づき説明）

【江原委員】 冊子「多摩川は今」について、前回の会議でホームページでの掲載や様々なイベントで配布しているということだったが、指定管理の外郭団体施設にどのくらい部数を配布しているのか状況を聞かせてもらいたい。多くの人々が施設を訪れているにもかかわらず、「多摩川は今」の冊子がそこに配布されていないことに疑問があり、受託施設での配布が必要であると考え。予算を割り当てて改善すべきではないか。

また、公立の小学校と中学校への冊子配布も必要と考える。是非教員や生徒にも「こういうものがある」と活用してもらいたい。ただパソコンや携帯からでは中々難しいと思うので、図書館などに冊子を配置してはどうか。

【事務局】 各区役所と図書館には配布しているが、指定管理の外郭団体までは配布が追いついていない。情報発信が不十分である点については反省が必要。現在電子化についての議論も進行中であり、予算編成を踏まえながら、電子化を通じて情報を提供することを検討している。公式ホームページでの掲載は月間40件ほどのアクセスしかない。市の公式 Twitter など情報発信手段を多様化し、今後も具体的な取り組みについて報告できるように検討を進める。

【吉富委員長】 冊子と電子化したもの、双方の性質や配布先の属性を考慮して是非両輪で進めてもらいたい。

【堀委員】 12 ページの③について、「大師河原水防センター」と表記してあるが、ここは「大師河原干潟館」に変更した方が流れが分かりやすい。また、「大師河原河川防災ステーション」というのは初めて見る用語だがこれは一体何か。

加えてもう1点、「ステーションの【一画】」という表現がされているが、【一画】は普通土地の部分の指すため、【一角】の表記の方が正しい。

さらにもう1点、以前の会議で「サイクリングロード」という言葉は死語にしようと思ったのではなかったか。「多摩川ふれあいロード」という愛称が決まったのだから、担当者にもそういった意識を持ってもらいたい。

【事務局】 大師河原水防センターについては令和4年度の報告から「大師河原干潟館」と修正する所存。大師河原河川防災ステーションについては、水防センターの建物とヘリポート等を含めた区域を防災ステーションとしており、市と京浜河川事務所で覚書を結んで管理をしているため、ここでは防災ステーションという名称を使用している。そ

の一面にある建物の中での一部で「大師河原干潟館」として、環境学習と情報発信をする施設という立ち位置のためこのような形で表記している。

【江原委員】 多摩川の河川敷でランニングやサイクリングを楽しむ外国人が増加しており、数年前から英語標記を要請しているが、未だに実現していない。特に、ふれあいロードの入り口やランニングロードにおいて、英語標記が必要と考える。英語標記の不足は事故のリスクを高める可能性があり、自転車の利用者はヘルメットを着用している一方、ランナーや散歩者はヘルメットを着用していないため、衝突事故の危険性があるのではないかと。ふれあいロードの整備以降、特にトラブルや問題事例は発生していないのか知りたい。

【事務局】 ふれあいロードでは2メートルが基本の幅員で、徐々に広げているが、まだ狭い部分もある。自転車と歩行者が共存する中で、ロードバイクが高速で走行することが問題視されており、多摩川管理事務所にも関連の意見が寄せられている。しかし、具体的な事故報告はない。ただし、危険な状況がいくつか報告されているため、注意喚起が必要とされている。

安全対策工事については、意見が寄せられたところから実施している。特に昨年度に行った工事では、ふれあいロードが橋の関係で狭くなり、危険な箇所がいくつかあったため、ハンプの整備を行い、安全性の向上を図っている。また、今年秋の交通安全期間に現地で自転車の速度制限が効果的かどうかを調査する予定。いくつかの意見を受けて、ハンプを避けて走る人がいることや、ハンプ自体が危険であると感じる人もいることなど、追加情報ももらっている。したがってハンプの設置状況について、効果を確認するための調査を行う予定。

【目黒委員】 実際、鈴木町や下流側に表示があることを確認しており、幅が細い箇所でもちゃんと表示があるため、特に問題はないと思う。ただし予算には限りがあるため、優先順位をつけて対応してもらいたい。ゼロリスクは難しいかもしれないが、大事故を防ぐために対策を講じてもらいたい。

【寺尾委員】 実際問題、スピードを出し過ぎている自転車が多い。建設緑政局の方々は平日に調査を行っていると思うが、下流に行くと桜の季節など、土日は自転車が非常に多くなる。2歳になる孫を大師橋とスカイブリッジの間で散歩させているが、小さな子供を歩かせるには適していない状況。

予算の制約もあるかもしれないが、やはりスピードを抑制する対策や英語標記が必要と考える。ハンプについてはアメリカなどでは普通に使用されているもので、2センチの段差が危険ということは、自転車の速度が速すぎることを示している。したがって、この問題に対処するための啓蒙活動や標記をもっと行ってほしい。

【小野委員】 特に今の時期は雑草が急速に成長し、いくつかの場所で両側から覆われるようになってきている。これがあると広いはずの道路が半分ほどしか使えないような体感になる。これも予算の制約もあるかもしれないが、必要な場所に早めに除草をしてもらうなど、そういったモニタリングと対策を行うことで、安全対策にも効果があるのではないかと。

いかと思う。

**【水庭副委員長】** 安全施策に関する啓蒙活動は今のところよくできていると思う。川は楽しめる場所でありながら、状況によっては事故や命を失うことがある。今年の内では川に関する事故の報告を聞かなかったので、啓蒙活動や声かけがそういった結果に繋がっているのかと思う。

以前はバーベキュー広場でアルコールを摂取した際に、足元を川に取られて……といったケースをよく聞いたが、それらの事例が減少しているのは、啓蒙活動の成果の一部だと考えている。さらに、川で楽しむ際にはライフジャケットの着用や水位が低いからといって安全でないことを強調し、啓蒙活動を継続する必要があると考える。

また、安全講習は比較的行っているから見受けが、例えばハザードマップの作成や流域治水に関することなど、防災教育の推進などについて実績はあるのか知りたい。洪水の時にどういう風に対応するかといった部分や、ハザードマップやマイタイムラインなど、そういうようなことも含めた防災教育だと思う。何か今後、検討事項などはあるのか。

**【事務局】** 防災教育については「水辺の教室」というプログラムを行っているが、ハザードマップの作成については当課では行っていない。マイタイムラインも含めて防災関係は危機管理本部が所管している。区役所などでも市政だよりを通じて年 1 回、ハザードマップやマイタイムラインの案内を行っているため、今後危機管理本部と相談しながら情報提供について必要な事項を検討していく。

また、河川財団が制作した治水防災に関する YouTube 動画があり、これが非常に分かりやすく、教育委員会にお願いし、小学校の 4~5 年生向けの教材として活用いただいている。横の連携も強化し、教育の分野での協力を進めていきたい。

**【五十嵐委員】** 川崎水辺の楽校で活動している中で、以前開校式の際に危機管理室や消防署と連携して、煙の中を通過する訓練や、水の消火器の使い方などの防災訓練を行ったことがある。各グループがこのような活動を続けていけば、防災意識を高めていけるのではないかと思う。

**【吉富委員長】** 学校でも火事や地震に対する避難訓練はよく行われているが、水に関する防災はまだ始まったばかりだと思う。「多摩川は今」にはハザードマップが掲載されているが、例えば地域の学校が多摩川について学習する際には水防災に関心が向くかもしれない。すでに良い教材が準備されているので、今後関連部署と連携しながら進めていってほしい。

**【江原委員】** 資料 3 で説明された通り、丸子橋周辺での利活用について来年度から本格的に進める計画があると聞いている。その中で会場図を見ると、キッチンカーが多摩川の外側の道路に近い箇所（マラソンコース）に設置されている。すると、例えば土日祝や 5 月の連休など家族連れが非常に多い時期は、ランナーとぶつかる可能性が非常に高い。今後はこのような制御と安全対策について考慮する必要があるため、この周辺に訪れる来場者数や詳細なデータについての情報を提供していただきたい。

【事務局】 土日祝日に行われたイベントの参加者数は、イベントの内容によって異なる。例えば「ふわふわたまランド」のようなイベントでは、最も多い時で約 1,000 人が参加し、7~8 台のキッチンカーも出店した。また、最近では丸子橋周辺で地域の盆踊り大会が行われ、数千人単位で参加者が集まった。ただし、普通のたき火のイベントでは参加者数が少ないこともあり、イベントの性質によって参加者数が異なるため細かい実績にはばらつきがある。

【江原委員】 マラソンコースの管理責任はこちら側にあり、現在の配置だとイベントの参加者とランナーが交差し、事故に繋がる可能性が高い。来年度から稼働するにあたって、具体的な安全対策を含めて協力をお願いしたい。

【堀委員】 この「多摩川は今」という冊子は実施事業報告書っていう性格があるので、仕方ないと思うが、端的に言って小学校・中学校の児童生徒たちにとってはずつまらないのでは。

「多摩川は今」に載っているのは全て河川敷やサイクリングなどの周辺環境や設備の話であって、多摩川そのものではない。そうすると子供たちは今の多摩川にどんな魚がいるのか。あるいは上流、中流、下流部にはどんな生き物が、どんな魚、どんな鳥がいるのかとか、どんな昆虫がいるのか。そういうのがないとなかなか子供たちは興味を持ちづらい。これは大人の実施事業報告書なので、小中学校に配布するという意識を持つのであれば、例えば一番最後のページにある実施事業一覧表というのは必要ないのである。事実委員会も細かく目を通してはいる訳ではない。

魚というと委員長も専門分野なので、これからはこの冊子の性格も含めて、より子供たち向けの魅力あるものに作ればいいのかと思う。

【吉富委員長】 少しフォローするならば、例えば小学校の総合学習で地域の人が川にどうかかわっているか。また、行政はどんなことをやっているか、という調べ学習をする時にはこのような冊子が役立つのではないと思う。

子供たちは生き物への関心が高いので、ご指摘いただいたような情報も何かしらの形で掲載できるといいと思う。

【五十嵐委員】 丸子のエリアでキッチンカーの場所の変更を検討できないか。キッチンカーそのものよりも、マラソンコースの周りの来場者の動きが問題。そのため、キッチンカーの設置場所を変更できれば、動線の交錯が緩和できるのではないかと。

#### <議事(4) 次回の多摩川プランの改定に向けた考え方の検討について>

【事務局】 (資料に基づき説明)

【事務局】 補足として、2023年3月に国土交通省が、水害の頻発や気候変動の影響を考慮して多摩川の河川整備基本方針を見直した。これに基づいて、今後、河川整備計画を更新する予定とのことである。

【寺尾委員】 毎年7月7日が川の日で、多摩川でも「ミズベリング」というイベントが行われていたと覚えがある。しかし今年はコロナの影響で中止になったのか、イベント

の情報が聞こえてこなかった。イベントの連続性が途切れたように思う。多摩川プランの改訂もこれから着手するところだと思うが、連続性が途切れてしまった点が気になる。

【吉富委員長】 緑の基本計画と多摩川プランは共通する部分が多い。ただ緑の基本計画は令和 9 年度までで、多摩川プランは 7 年度まで。そのため多摩川プランを先に決めてしまうと、緑の基本計画の調整が取れなくなる。そこは柔軟に対応していくのか、8 年度から新しくする方向で進めていくのか、そのあたりが議論のポイントになるのではないか。

今までは多摩川プランを中心に意見を出し合ってきたが、緑の基本計画についてもこれから大きなイベントがあるので、今後の動きを注視しながら進めるべきではないか。

【事務局】 令和 6 年度に川崎市制 100 周年を迎え、それに合わせて開催するかわさき緑化フェアが控えている。このフェアを契機に川崎市の緑に関わる行政組織は、緑の在り方の検証を進め、フェア後も新たな緑の行政形態を模索し、令和 9 年度の緑の基本計画策定に向けた流れを作っていく予定。

【吉富委員長】 大きく関連するような施策の動きを反映した形で新しいプランを作っていくこと、また激甚化している水害への対策もプランに組み込むことを考えれば、少し調整の時間が必要になるかもしれない。

【水庭副委員長】 多摩川プランには 100 の事例があり、古くなったものや終了したものもあるが、多摩川を流域全体として捉える先進的なアプローチが見られる。今後は環境が変わっていく中で、生物多様性や環境の激甚化に対応する必要がある。同時にグリーンインフラについても注目されており、これらの要素を取り入れながら、国の提案をリファインして多摩川に特化したプランをしっかりと持つことが大切ではないか。全ての事例を緑の基本計画に組み込むことは難しいが、このプランはより堅実なものとして維持していくべきだと考える。

【事務局】 4 つの提案を考える過程で、庁内でもさまざまな意見が出ている。特に多摩川の防災と公園緑地の防災について、防災という言葉は同じだがそのアプローチやアウトプットには大きな違いがある。多摩川の防災は治水や安全な利用を重視した普及啓発活動に焦点が当てられている一方、公園緑地の防災は避難場所としての機能や、災害後の一時避難所としての具体的な活用方法にフォーカスしている。水辺と公園緑地という違いも考慮しながら、計画の改定方法について検討を進める予定。

【小野委員】 多摩川プランが水域を中心に置いたプランであることの重要性を再認識できた。緑の基本計画は生物多様性、緑、水域など、テーマごとに中心になるプランがある。一方でその中で多摩川は水域を中心とした理念を述べるような、中心にして語る部分が明確になっていくような有り方があるのだと感じた。

【吉富委員長】 行政の方でも流域の意味を説明できない人が実際に多い。水が流れている場所だけでなく、雨が降った時に注ぎ込むエリアという感覚がない。こういった用語の使い方も含めて、この調整期間に丁寧に確認しながら進めていけたらと思う。

【緑政部長】 多摩川は川崎市にとって歴史、文化、自然、治水、環境など多くの要素を含む財産。最近では環境の変化、生物多様性、脱炭素、コロナによるスペース利用の変化などがあり、最初の多摩川プランの策定時には想像し得ない状況になっている。多摩川は、子供たちに対してさまざまな要素を一つの施設で分かりやすく伝える場所としても重要である。

多摩川プランについての改定時期については柔軟に捉え、緑の基本計画との整合性も考慮しつつ、引き続き、幅広く、さまざまな意見を頂きながら、より良いものとして整理していきたいと思っている。

<議事(5) その他>

【事務局】 (事務連絡)

—閉会—